

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 3641
16年3月29日(火)
・Fax 095-828-1953

差別と闘わないと なにも変わらない

おはようございます。

郵政ユニオン長崎は三日にストライキに入り、朝から玄関前集会を開きました。集会には地域共闘の一〇労組、五〇人の仲間が支援に駆けつけてくれました。以下は、高口支部長が集会であいさつしたお礼の言葉です。

*** **

郵政ユニオン長崎中央郵便局支部 支部長の高口です。今日は早朝より十六春闘勝利、

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。



三、二、三ストライキ突入支援集会にて、お集まり頂きありがとうございます。みなさんのご支援が、郵政ユニオンの支えです。感謝しています。

私たち郵政ユニオンは、二月十日の要求書提出、第一回賃金交渉以来、今月十七日の第七回賃金交渉まで大幅賃上げ・非正規社員の正社員化・待遇改善など、大きな四つの要求獲得に向け中央交渉を精

力的に行っていました。しかし本社はベア・ゼロの回答でした。郵政ユニオンは交渉の最後に日巻中央執行委員長から「スト通告」を行ない、本日ストライキとなりました。また今年は「目に見える春

闘を行おう」として、長崎中央郵便局支部でも「時給制期間雇用社員への、所属長権限で加算できる賃金の引上げ要求」を提出し、「独自加算を行っている西彼杵局と同額の加算を行え」として、交渉を重ね有額回答を求めました。しかしこれもゼロ回答でした。

今日ストライキには非正規社員組合員六名と正規社員組合員二名が参加しています。振り返れば、私が初めてストライキに参加した四年前は、非正規からの参加は長中局で一人だけ。たぶん全国でも初めて参加でした。



非正規がストうつなどということは、郵政ユニオンに加入すると雇用継続が危ないといわれる時代であって、さらなる決意があることです。参加者は全国でもそう多くはありません。しかし、私がストをうつ理由は、賃上げのほかに、差別と闘うことであり、闘わないとなにも変わらないと思うからです。

二年前のストライキでは、私のほか原田さん・日野さんが参加し三人になりました。そして今年は六人の非正規組合員が参加しています。二年前のストから参加者が倍増した最大の理由は、所属長加算を求めた支部での独自要求と交渉です。

詳しくは交渉に当たった向井副支部長が報告しますが、この四〇円の所属長加算を求めた行動は、組合員はもとより組合員以外からも「本場に組合が私たちのために、十円、二十円という時給アップのために交渉してくれている」と多くの支持を受けました。今回初めてストに参加した金重さん、前田さん、原さんの参加理由も自分たちの時給アップのため交渉している郵政ユニオンの応援になればと思ったからだ、といっています。

今日のスト前には「有額回答があればスト拠点からの離脱もある」と会社に伝えました。しかし長中局は有額回答でのスト回避よりも、ゼロ回答を選びました。

今回の支部交渉に対して長中局の回答は「長中局局長の権限外」というものでした。しかし「時給制契約社員への所属長加算は、所属長の権限で行なえる」と給与規定にも記載されています。

また三月一〇日の衆議院総務委員会での国会答弁で、日本郵政の勝野専務は「基本的に、時給制の契約社員の単価設定は、採用時に所属長がその当該地域における募集環境等を考慮して決定する」と答えています。

長中局長の回答は事実上、反する不誠実なものです。支部はこの回答をもって、長崎中央支部でも期間雇用社員を含めストライキに入るという決意を固めました。

今回、納得のいかない回答で、所属長加算は得ることはできませんでしたが、来年はこの経験を糧に、再度要求交渉に臨みます。



今日スト前には「有額回答があればスト拠点からの離脱もある」と会社に伝えました。しかし長中局は有額回答でのスト回避よりも、ゼロ回答を選びました。

め、全国三職場、八六人が参加しました。

私たち長中局支部も最後までストを敢行し、春闘要求を勝ち取る闘いを進めます。本日は早朝よりご支援にお集まりいただき、誠にありがとうございました。

期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。めざせ、均等待遇。なくそう差別！



1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。